

園長だより NO65

進級、入園から2か月が過ぎようとしています。それぞれの子ども達が園生活において自己が安心して安定できる環境をみつめています。厳密にはそれぞれの子に違いは当然あります。見つけた子、みつけているところ、等々人、もの、子どもたちが関わる環境の中で安定を獲得するプロセスがみられます。

子どもの主体を考えた保育内容

探求心旺盛な子ども達、日々の生活のいろいろなコマ(出来事)から生きるすべを学び、自己を形成していきます。

なんだろう? 触れてみよう! やりやいな! やってみよう! 大人から考えれば思いもよらぬアプローチも多々ある。

自分の思いのままに動いてみる。※けて自分勝手な子どもを育てようとするものではありません。

自分の思いにこだわり、動いてみる。それは周りの大人からとやかく言われるものではありません。本来は他者から尊重されものであると考えます。乳幼児期のすべての経験が自分の未来を作ると考えられます。

自分を知り、他者を知る。自分とは異なることを肯定的に受け入れ、穏やかな心でイキイキと育ち活動していくことに繋がると思っています。

子どもの表現

絵を描く、歌をうたう、踊る、身体を動かす、言葉を使う等々表現をついつい分類して見がちである。

表現の源になるのは常に心だと思っています。それぞれの動きの中で心が動いています。生きていることは心が無表情ではありません。目には見えませんが表情もっています。

そばにいる大人が心の動き、表情をしっかりと感じてあげることが大切です。

私は美術の専門家ではありませんが物心ついたころから学校の美術の時間(造形や絵画)があまり好きではあり

ませんでした。

※ひとりで絵を描くこと 落書きなどは好きでした。

美術や図工の時間は苦手、上手い下手で分類され、描き方も指導される。授業であるから当たり前なのかもしれないが自分が打ち消されてしまう。

そもそも絵を描くって「なんだろう?」

描かされている絵は自分の絵ではない、指図されて描いていることに違和感を抱き、なんとも後味が悪かった記憶がある。

今の世の中、既存の価値観の中で評価されてしまう。

関わる大人はその価値観の中での成果を求めてしまう。

結果、それぞれの心(表現の源)などを感じ取ってあげる事など二の次になる

せめて保育園では自ら思い、感じて、考えたことは子どもなりに現していける環境をつくる必要があると感じています。

大人の概念をかえる 保育者の概念崩し

私たち大人は小さい頃から受けてきた保育又は教育が大きく影響している。保育者はその影響が顕著にある。

絵を描くことを取り上げてもみても指導する大人の価値観から合わなければ、好意的な見方はされない。

指導計画通りにいかないとご立腹する。指導という名のもとに成果を求める。出来栄を優先する。

既存の価値観に頼り過ぎて、自らが新しい価値観を生み出すことができない。当然のように関わる大人の概念も崩さなくてはならない。

絵を描くこともいろいろな手法があり指導法もある。子ども達の育つ環境も異なる。

少々気難しいことを書きましたが子ども達が新しい価値観を創出してくれることが子ども達のより良く育つことに加え大人への刺激、変化のチャンスを与えてくれることとなります。

子どもたちとしっかりと向き合い、それぞれの心情を自然と理解できるようでなければ子どもの育ちは保証できない。

最近の表現 大人の概念を崩そう

決まりきった制作やみんなが同じ課題に向けた絵を描かせる活動を見直しています。

※すべてを否定しているわけではありません。

まずはそれぞれの子ども達が何を感じ、何を思い表現しているだろうか その面白さ、気づきや発見、創造、決まりきったことをさせていたら気づかない、感じる気持ちも薄れていく

子ども達に教えてもらおう!

育つための 貴重な体験 !



感じる大人の感性を豊かに一人、一人の織りなす表現をよみとってあげる

やってみたいなを実現 またやりたいなを実現



楽しいな おもしろいな 夢中になれる環境を知恵をしぼり 考えていきたい。(園長 廣部信隆)